

孤独な子育てを助け合いの子育てに



▶▶▶ 地域の子育てを可視化して親のつながりを生むサービス



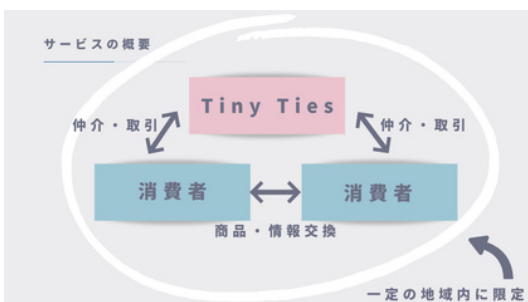
1 - はじめに

近年日本では核家族化が進み、子供は家庭で育てるものだという意識が一般化しています。このような孤独な子育てが原因で親が悩みを抱え込むようになってしまったり、時には悲しい事件が起こるケースも少なくありません。この現状を解決し、地域コミュニティの絆を深め、助け合いの子育てを実現するためにTiny Tiesというサービスを考案しました。

2 - サービス内容

Tinyは小さな子どもたちを表し、Tiesはそこから生まれる繋がりを表しています。これは子供用品を地域でシェアすることで地域の子育てを可視化し、親同士のつながりを生むサービスです。子どもは成長が早いので、子ども用品はすぐに使えなくなってしまいます。しかし、その商品自体はまだ使えるケースが多いのです。私はその問題に着目して子供用品を地域でシェアするという解決策に辿り着きました。譲りたい人と欲しい人をつなぐ、いわばマッチングアプリです。地域を限定することで、顔を見て安心して取引ができます。

3 - 子育てのバトンを繋ぐ



Tiny Tiesを通して子ども用品を使い終わって譲りたい、いわゆる先輩お母さんと子ども用品をこれから使いたい初心者のお母さんを繋ぐことで商品だけではなく情報の交換もできるようになります。初心者の親にとって子育てに関する情報はとても大切です。Tiny Tiesを通して子育てのバトンが渡される瞬間を作ることができます。

4 -競合他社

競合他社として左の3社などが挙げられます。

Tiny Tiesの独自性を生み出すべく、既存のサービス

の問題点を調べました。メルカリやセカンドストリート



mercari



ジモティー



は売るのに手間がかかり、その時間が子育て世帯にとって痛手になることがわかりました。

また、その限られた時間を使って商品を買っても、なかなか売れず、結局自宅保管になって

しまうことや、売れないものは結局廃棄してしまうという問題点があります。

5 - Tiny Ties の独創性



以上の他社分析を踏まえてTiny Tiesでは掲載期間を

決めて売れなかったものは寄付に回し、廃棄をなくす

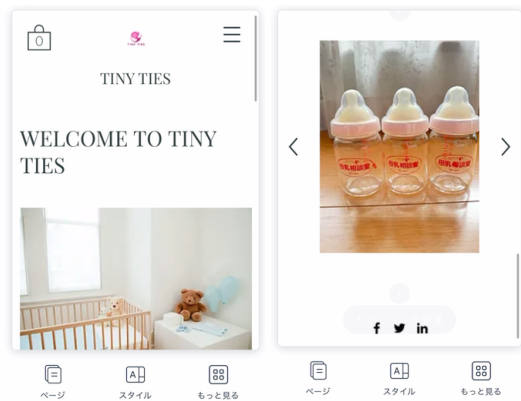
システムを作成します。対象は近年増加している相対的

貧困の家庭、つまり最低限の生活を送ることができても

余裕のある生活ができているとは言えない家庭に送る

ことにします。

6 -実証



Tiny Tiesのwebサイトを作成し、現役ママ10人を対象

として実証を行いました。30代女性からは「自分の

子どもが使ったものを地元の人に譲れるのは嬉しい」

と嬉しいお言葉を頂きました。まだ狭い範囲での実証

しかできておらず、安全性が明確ではないので、

これから規模を広げていきたいです。

7 -地域社会との関わりと持続可能性

地域のお母さん129人を対象にしたインタビューでは約83%の親が孤独を感じていると回答した

調査結果があります。実際私がインタビューした家庭でも、育児中は子どもとしか向き合えず、

社会から置いていかれてる感覚がある、もっと大人と話したいという声がありました。

子どもは大人の中で育つものです。親が頼れる環境があること、1人ではないと知ること。

地域社会と関わりを持つことこそがコミュニティが希薄化した現代においてとても大事になるの

ではないでしょうか。また、地域での子育てを実現したまちにインタビューしてきました。その

まちは周りに頼れる安心感が人口増加に繋がり、経済成長まで成し遂げていました。

このように、まち全体が子どもを大切にす意識は持続的に良い効果をもたらすのです。

Tiny Tiesの軌跡

1-現役JK、子育ての問題に目覚める

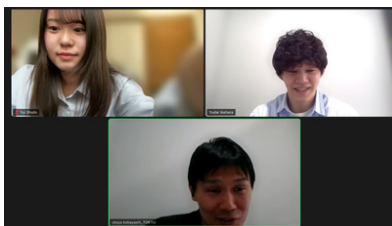
現役JKの私が子育ての問題に本気で取り組む理由。それは私の幼少期と関係しています。両親が共働きで父が単身赴任で家にいない家で育った私は、ほとんど母一人の手で育てられました。母は周りに頼る人がおらず、一人で子育てをしていくうちに母は孤独に追い詰められていきました。「一人の子供を育てるには一つの村がいる」というアフリカのことわざがあるように、子供を育てるには周りの助けが必要不可欠です。母の苦労を間近で見てきた私だからこそ、この孤独な子育てを助け合いの子育てに変える使命があるのです。

2-先人との出会い

この問題を解決したいと思うようになってから私と同じ問題意識を持って実際に活動している20人以上の方々に対談してきました。中でも子育てシェアアプリを展開している株式会社のCEOの方のお話が私に大きな影響をもたらしました。その方は地域での子育てを実現させた第一人者でした。私なぜこの活動を始めたのかとお聞きすると、周りの親が自分の子供を預けることを後ろめたく思っていること、しかし一方で子供をお世話したいと思っている人が同じくらいいたことについて話してくださり、その中で預けて「ごめん」と思うのではなく「ありがとう」と思うことでありがとうの等価交換ができると考えたと話してくださいました。私はその言葉を聞いて、今この社会に足りていないのはこの概念なのではないかと気付かされ、お互い感謝と敬意の気持ちを持って助け合うことができれば、理想の社会を実現できるのではないかと考えました。

3-動き出した私

子育てをしたことがない私にとって1番の問題点は現場のリアルを知らないことでした。まずはこの問題を解決するために、私は1歳から12歳まで幅広い年代の子どもと関わりを作り、実際に体験することで親の目線に立った見方を身につける努力をしました。Tiny Tiesというサービスを考案してからは自分で作ったスケッチブックを片手に保育現場を周り、親の声や子育て従事者のアドバイスを聞いて改良を重ねていきました。



Tiny Tiesの軌跡

4 -イベント開催

サービスを広めるための第一歩として、Tiny Ties主催のイベントを行いました。開催場所を確保するため、子育て支援施設を10件以上周り直談判をしに行きました。何度も断られながらもついに、預かり保育を行う施設の施設長の方が私の考案したサービスに賛同してくださり、イベントを開催することができました。親も子どもも来てくれるように1からイベント内容を考え、手形アートを使ったイベントを開催しました。それだけでなく直接親同士の交流に立ち会うことで、実際に子育てのバトンが渡される瞬間を見て多くの学びを得ることができました。



7 -今後の取り組み

今後取り組みたいこととしては、webドメインの取得とサービスのアップデートが挙げられます。webドメイン取得により簡単にこのサービスを見つけることができ、知名度向上につながるためです。そして私の周りだけでなく、遠方の方も利用していただくためにはwebページをアップデートする必要があります。また、実証にの中で先輩ママと繋がるだけでなく、同期の親と繋がるサービスも欲しいという声を頂いたので、親のマッチングにフォーカスしたサービスも展開していきたいと考えています。現状、私の技術だけでは足りないため、勉強したり、仲間を見つけて活動範囲を広げていきたいです。Tiny Tiesを通して、助け合いの子育てが広まり、孤独な子育てから生まれる悲しいニュースがなくなる社会になることを願っています。

8 -Tiny Tiesの社会的意義

